平城京東市跡推定地の調査 XI

第13次発掘調査概報

平成5年

奈良市教育委員会

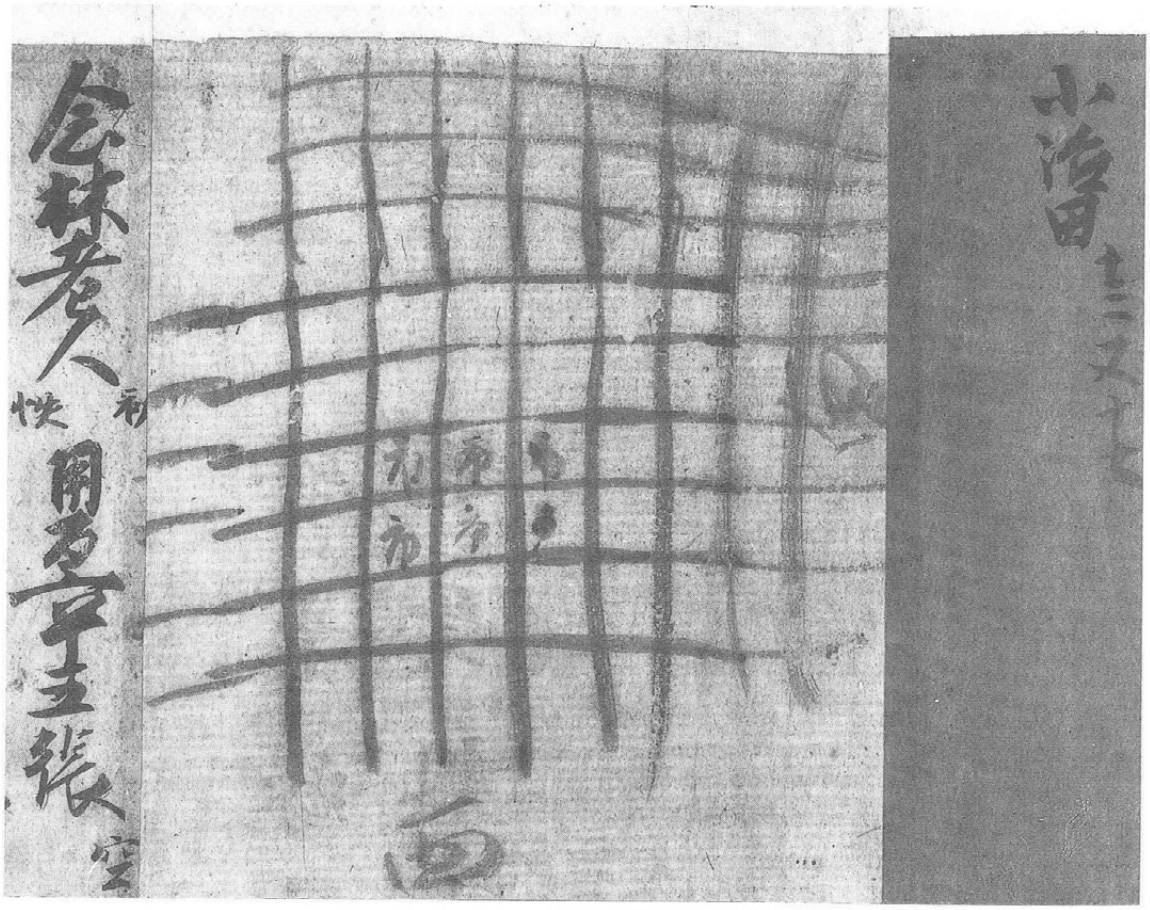


fig. 1　平城京市指図

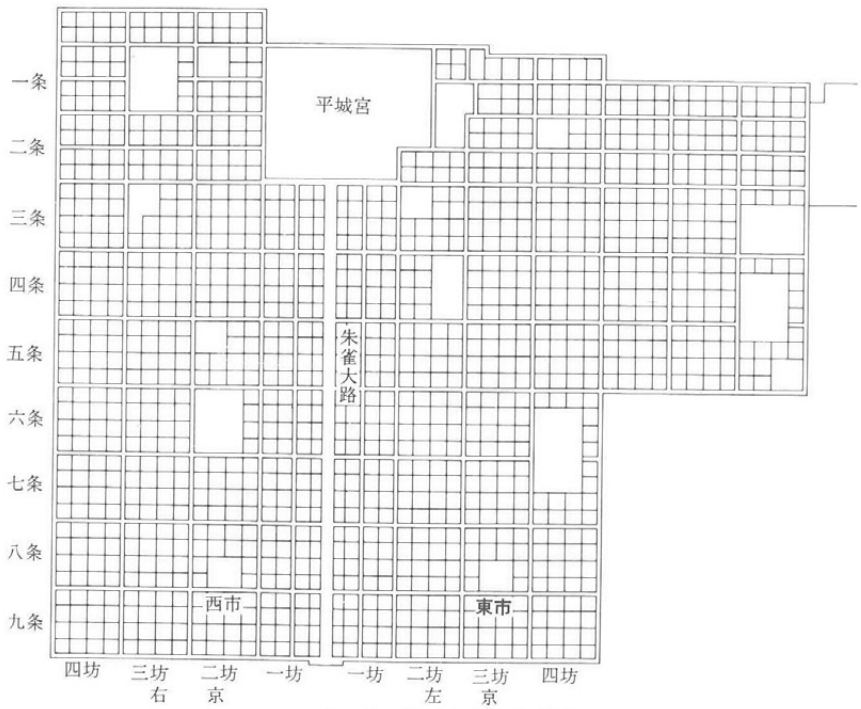


fig. 2　平城京東市位置図

序

奈良市教育委員会が、平城京東市跡推定地内の発掘調査を継続的に開始して以来、既に12年の歳月を数えるに至った。発掘面積は約4400㎡に達し、数々の遺構・遺物の発見があり、東市推定地内部の様相も年を逐うて明らかになりつつある。特にここ5年間は、市の内部の利用状況を知るために、六坪内を集中的に調査した。その結果、六坪内に入るための門や数多くの建物、広場が存在していたことが判るなど調査成果にも多くの進展を見ることができた。今回の調査でも、倉庫が建ち並んだ一画が明らかになり、新知見を加えることができた。このように、綿密な調査を続け資料を積み重ねていくことが東市の解明につながると確信している。

最後に、本調査について多大な御理解と御協力をいただいた土地所有者である吉松茂信氏をはじめ、地元農家組合の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、調査遂行にあたって御指導いただいた奈良国立文化財研究所、奈良市文化財保護審議会の方々に感謝する。

平成5年3月

奈良市教育委員会

教育長　**久保田　正　一**

例　　言

1、本書は、平成４年度に実施した、平城京東市跡推定地第13次発掘調査の概要報告である。

1、調査次数、調査期間、面積及び調査地番は下記のとおりである。

第13次調査　平成４年11月10日～12月18日　449㎡　奈良市杏町580番地の１

1、調査は、奈良市教育委員会社会教育部文化財課（課長：小林謙一、奈良市埋蔵文化財調査センター所長：福本健司）が実施した。現地調査の担当は三好美穂、森下浩行、宮崎正裕、庶務担当は蔵内康良である。なお、調査補助員として、奈良大学渡辺典子が参加した。

1、調査にあたっては、土地所有者である吉松茂信氏から御理解と御協力をいただいた。記して感謝いたします。

1、本書の作成にあたっては、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部、浄土宗総本山知恩院から、写真、地図の提供をいただいた。記して感謝いたします。

1、本文中で使用した土器の器種名および調整手法は、奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告書　Ⅵ・Ⅺ』に準拠した。

1、本書の執筆は、Ⅱ-3の石製勾玉を松浦五輪美が執筆した他はすべて三好が行い、編集も三好があたった。

目　　次

Ⅰ　はじめに……1

Ⅱ　調査成果の概要……2

　1、堆積土層……2

　2、検出遺構……2

　3、出土遺物……6

Ⅲ　まとめ……7

図　版　目　次

fig.1　平城京市指図　表紙裏

fig.2　平城京東市位置図　表紙裏

fig.3　東市推定地周辺の条坊・調査位置図　1／5000　1

fig.4　遺構平面図　1／200　3・4

fig.5　井戸ＳＥ214平面・立面図　1／60　6

fig.6　出土遺物実測図　1／4・1／2　6

fig.7　調査区全景（東から）　10

fig.8　調査区全景（西から）　10

fig.9　建物ＳＢ203（北から）　11

fig.10　建物ＳＢ208（北から）　11

fig.11　建物ＳＢ209（北から）　11

fig.12　井戸ＳＥ214（東から）　12

fig.13　建物ＳＢ209根巻石（北から）　12

fig.14　建物ＳＢ209柱抜取痕跡（北東から）　12

tab.1　平城宮・京内検出の総柱建物一覧　8・9

Ⅰ　はじめに

奈良市教育委員会が昭和56年度以来継続して実施している平城京東市跡推定地の発掘調査も今年度で12年目を迎え、調査次数も第13次となった。これまでの調査成果により、幾つかの知見を得ているので、以下にその概略を記しておく。

第１～７次調査では、東市に比定されている左京八条三坊五・六・十一・十二坪の４坪分のうちの北・東・西辺の道路及びその側溝、十一・十二坪坪境小路、築地痕跡や築地に開く門などを検出することができ、東市推定地の範囲をほぼ確認することができた。第８次調査以降は、六坪内部の利用状況を把握することを目的として調査を行った。その結果、東三坊坊間路、六坪の中央部付近には広場が存在することや広場の北側には掘立柱建物や倉庫などがあることが判明した。これらの調査を通じ、東三坊坊間路と十一・十二坪坪境小路などの道路、門を検出したことにより、推定地内は道路でひと坪ごとに区画されていた可能性が考えられるようになった。

また、第12次調査で検出した井戸からは、「鯛」と墨書きされた土器や習書木簡などの文字資料、京内では類例の少ない木履、漆器皿が出土するなど東市跡推定地内部の遺構の性格を考える際の貴重な手がかりを得た。

このように継続調査を重ねることにより、徐々にではあるが内部の様相が明らかになってきている。これまでのところ、「東市」と直接結びつく文字資料などの成果は得ていないが、引続き綿密な調査を行っていくべき地域であることはいうまでもない。

これらの成果を受けて、今年度は、六坪の様相をさらに詳しく知ることを目的として、第９次調査区の北側に発掘区（発掘面積449㎡）を設定し、平成４年11月10日から同年12月18日まで調査を実施した。

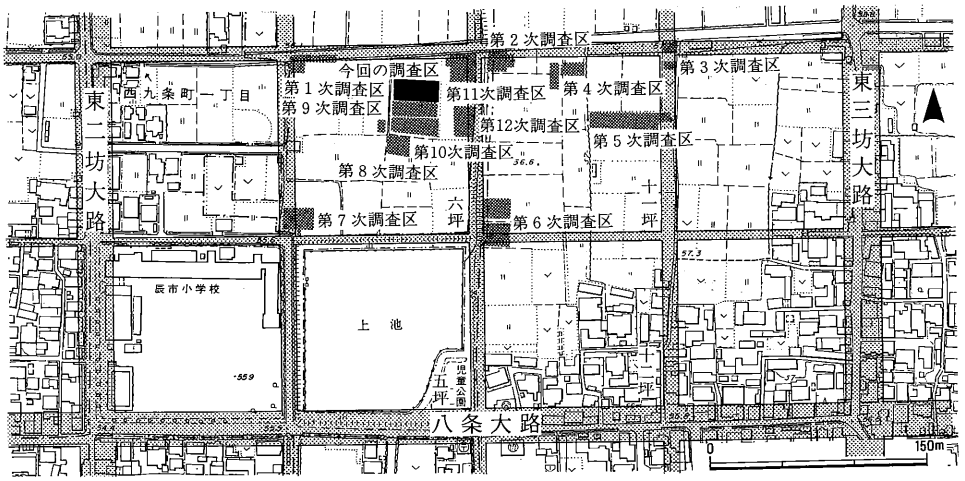
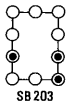


fig.３　東市推定地周辺の条坊・調査位置図　１／5000

II　調査成果の概要

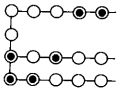
1、堆積土層　発掘区内の堆積土層は、今回の調査区に南接する第９次調査区の所見と同じで、耕土・床土（厚さ約25㎝）の下、茶灰色砂質土（約25㎝）、黄灰色砂質土（約10㎝）と続き、耕土上面から約60㎝で黄褐色粘土の地山になる。遺構を検出したのは、黄灰色砂質土の上面である。遺構検出面の標高は、概ね55.8ｍである。

2、検出遺構　検出した主な遺構は、奈良時代の掘立柱建物11棟、掘立柱塀１条、井戸１基で、他に時期不明の素掘りの溝１条がある。

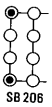


ＳＢ203　発掘区の中央で東西２間、南北２間以上までを確認した南北方向の建物であるが、第９次調査区で検出したこれらと柱筋の揃う２柱穴とあわせ、東西２間（4.2ｍ）、南北３間（6.0ｍ）の南北棟建物になる。柱間寸法は、桁行が北から2.1－1.8－2.1ｍ、梁間が2.1ｍ等間である。建物方位は、国土方眼位と一致する。

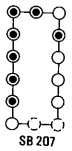
ＳＢ204　発掘区北東隅で検出した東西３間（8.6ｍ）以上の柱列で、北・東側は発掘区外へ続く。柱間は、西から2.9－2.9－2.8ｍである。西から２・３番目の柱穴には柱根が残存する。建物方位は、国土方眼方位と一致する。



ＳＢ205　ＳＢ204の南側で検出した東西４間（8.4ｍ）以上、南北２間（4.2ｍ）の東西棟建物で、南側に庇がつく。柱間寸法は、桁行・梁間ともに2.1ｍ等間で、庇の出は2.3ｍ。身舎の柱掘形の大きさは、一辺0.5～0.9ｍと不揃いである。建物方位は、国土方眼方位と一致する。



ＳＢ206　ＳＢ205と重複して検出した東西１間（1.7ｍ）、南北３間（6.3ｍ）の建物であるが、身舎部分は発掘区外へ続き、西側に庇がつく南北棟建物になる可能性が考えられる。南北の柱間寸法は、2.1ｍ等間である。建物方位は、国土方眼方位と一致する。重複関係からＳＢ205より新しいことが判る。



ＳＢ207　ＳＢ206の西隣で検出した東西２間（4.4ｍ）、南北５間（11.0ｍ）の南北棟建物。柱間寸法は、桁行・梁間ともに2.2ｍ等間である。建物方位は、国土方眼方位北で西に振れる。

ＳＢ208　発掘区西半部の北端で検出した東西３間（4.1ｍ）、南北２間（3.0ｍ）以上の総柱建物。柱間寸法は、東西が東から1.3－1.5－1.3ｍ、南北が1.5ｍ等間である。柱掘形の深さは、0.2～0.4ｍ

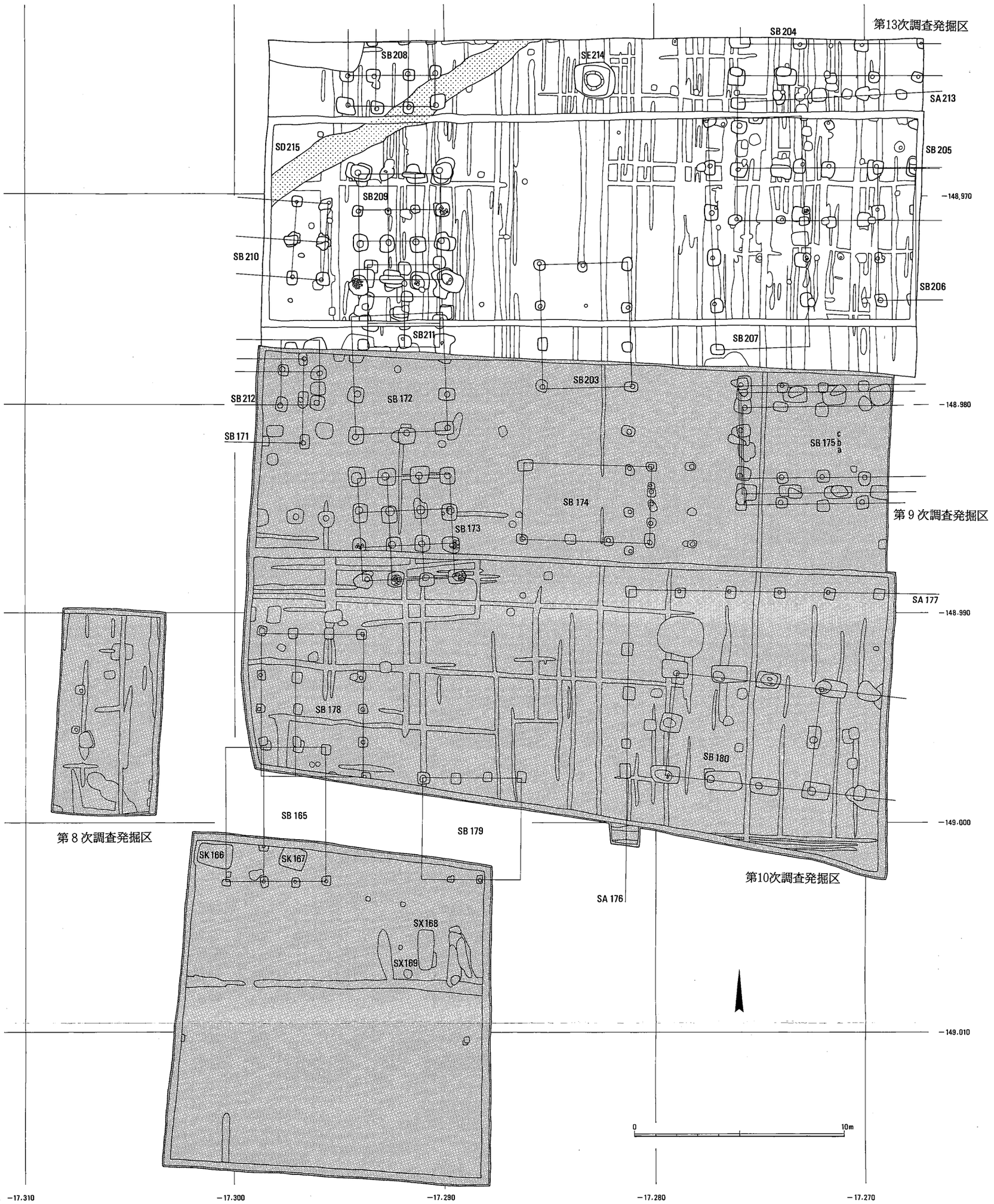
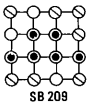


fig. 4　遺構平面図　1／200

と浅い。建物方位は、国土方眼方位と一致する。

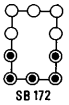
ＳＢ209　ＳＢ208の南側で検出した東西３間（3.9m）、南北３間（5.1m）の南北に長い総柱建物である。柱間寸法は、南北が北から1.8－1.5－1.8、東西は1.3m等間である。柱掘形は一辺0.3～0.8m、深さ0.1～0.6mと一定していない。柱根が抜き取られたものが多く、もとの柱掘形をとどめるものは少ない。北東隅の柱穴には根巻石が残存していた。東側柱列の北から２番目と南側柱列の東から２番目と４番目の柱穴には、柱を抜き取った跡に瓦片が大量に投棄されていた。建物方位は、国土方眼方位と一致する。



ＳＢ210　ＳＢ209の西隣で検出した東西１間以上（1.5m）、南北２間（3.6m）の総柱建物で、西側は発掘区外へ続く。南北の柱間寸法は、1.8m等間である。建物方位は、国土方眼方位東で南に振れる。

ＳＢ211　ＳＢ209と重複して検出した東西２間（3.2m）、南北３間（3.9m）の南北に長い総柱建物である。柱間寸法は、南北が1.3m等間、東西が1.6m等間である。柱掘形の１つから石製勾玉１点が出土した。重複関係からＳＢ209よりも古いことが判る。建物方位は、国土方眼方位と一致する。

ＳＢ172　ＳＢ211と重複して検出した東西２間の柱列だが、第９次調査で確認した建物と柱筋があい、桁行３間（5.6m）、梁間２間（4.4m）の南北棟建物になることが判った。柱間寸法は、桁行が北から2.0－1.8－1.8m、梁間が西から2.4－2.0mと不揃いである。建物方位は、国土方眼方位北で西へ振れる。重複関係からＳＢ211よりも古いことが判る。



ＳＢ212　発掘区の南西隅で柱穴を検出したが、第９次調査でこれと柱筋の揃う柱穴とあわせ、東西１間（1.8m）以上、南北２間（3.2m）の総柱建物になる可能性が考えられる。西側は発掘区外へ続く。柱間寸法は、1.6m等間である。建物方位は、国土方眼方位と一致する。

ＳＡ213　ＳＢ204の南側で検出した東西４間（8.0m）以上の塀で、東端は発掘区外へ続く。柱間寸法は、2.0m等間で、柱掘形は一辺0.3～0.6mと不揃いである。建物方位は、国土方眼方位東で北に振れる。

● 柱痕残存
◉ 柱痕跡確認
○ 掘形のみ確認
⊘ 柱抜取痕跡
◌ 推　定
（模式図の上が北）
※建物模式図凡例

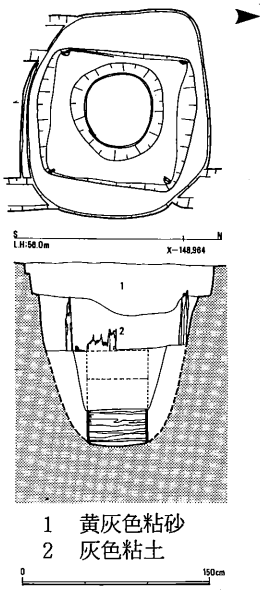


fig. 5　井戸ＳＥ214
平面・立面図１／60

ＳＥ214　発掘区中央北端で検出した東西1.65ｍ、南北1.5ｍの平面隅丸方形の掘形をもつ井戸で、検出面からの深さ1.4ｍを測る。掘形は、0.3ｍ掘り下げたところで段をつけ二段掘りにする。内に縦板組の方形井戸枠を据え、さらに井戸底には水溜の曲物が置かれていた。井戸枠はほとんど抜き取られており隅柱４本と西側の縦板１枚が残存するのみである。曲物は、下から三段分までを確認したが、上二段は痕跡をとどめるのみで詳細な寸法は不明である。最下段の曲物は長径60㎝、短径53㎝、高さ26㎝を測る。曲物内から奈良時代の土師器・須恵器片、平安時代前半の灰釉陶器、須恵器が出土した。

ＳＤ215　発掘区西半部でＳＢ208・210と重複して検出した斜行する素掘りの溝で、北と西側はそれぞれ発掘区外へ続く。溝幅は1.0～1.4ｍ、深さは0.3～0.6ｍである。

溝内埋土からサヌカイト片と時期不明の土師器片が１点ずつ出土した。重複関係からＳＢ208・210よりも古いことが判る。

３、出土遺物　遺物は、茶灰色砂質土、黄灰色砂質土、素掘溝、柱穴、井戸、土坑から遺物整理箱で９箱分が出土した。このうちの大半が丸・平瓦で、土器類は２箱分だけである。土器類の多くは細片で図示できるものが少ないが、ここではＳＥ214出土土器とＳＢ211の柱掘形から出土した勾玉について記す。

ＳＥ214出土土器には、土師器杯Ａ・甕・竈、製塩土器、須恵器杯・壷Ａ（２）・壷Ｂ（３）、甕、灰釉陶器小壷（１）がある。１は底部外面に糸切り痕をとどめ、体部内外面に顕著なロクロ目を残す。肩部から体部外面上半にかけて淡緑色の釉を刷毛塗りする。焼成は堅緻で、色調は淡灰色を呈す。１～３は９世紀前半から中頃の特徴をもつものである。

石製勾玉（５）は、長さ4.4㎝、最大径1.6㎝。頭部には径0.2㎜の小孔を両面からあけている。鉄分によって表面は橙褐色を呈するが、材質は滑石と考えられる。

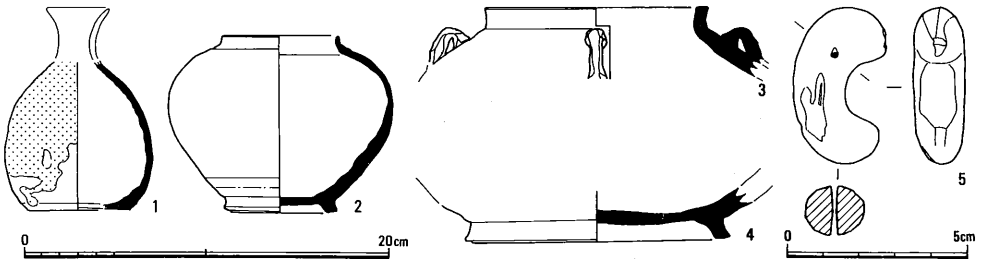


fig. 6　出土遺物実測図　１／４（５のみ１／２）

Ⅲ　まとめ

これまでの調査[1]により東市跡推定地内は、平城京内の一般宅地の調査成果とは異なった様相を呈することが明らかになりつつあり、この地域が「東市跡」である蓋然性がますます高くなってきている。今回の調査でも、一般宅地内では類例のない成果や新たな知見を得ることができたので、以下にまとめておく。

①　発掘区の東側には4間以上の比較的規模の大きい建物が、西側には倉庫と考えられる総柱建物が建てられていた。過去の調査成果とあわせて考えると、少なくとも六坪の北東部に関しては、総柱建物の一画、比較的規模の大きい建物が並ぶ一画、六坪中央付近の広場というように、3つの地区に使い分けられていたことが窺える。

②　総柱建物は、表（tab.1）に示したとおり、京内の宅地跡の調査でも検出されてはいるが、一箇所に数棟が並ぶ例は、小規模な宅地内では確認例がない。

③　これまで検出した六坪内の建物は、建物方位が、国土方眼方位と一致するもの（ＳＢ204・205・206・208・209・211など）と北で西へ振れるもの（ＳＢ203・207・172など）、北で東へ振れるもの（ＳＢ210など）の3方向あることが判った。時期の同じ建物は向きを揃えて建てる場合が多いことが知られており、建物方位と重複関係からみて六坪内の建物は、少なくとも3時期に分かれることが推察できる。

④　日常雑器である土器類の出土が少ない。このことから、ここが日常生活の場として利用されていた可能性が低いということも想定できるであろう。

このようにこの地域は、単なる一般宅地ではないことが容易に理解でき、「東市跡」である可能性がますます高くなってきている。しかし、直接「市」と結び付く資料は今回も得ることはできなかった。

これまでの調査は、市域推定地内全体の面積の1／16しか及んでおらず、一部の様相を把握したにすぎない。奈良時代の経済や流通の中心地でもある東市の実態解明のためには、綿密な継続調査を行って、傍証を積み重ねることが必要である。

また、このような優れた文化遺産を永く後世に残すことも我々の責務であるといえる。だが、現状では、東市推定地周辺の道路が整備されるなど、今にも推定地内部にまでも開発の手が入ろうとしている。東市実態解明以前に遺跡が破壊されることのないように都市計画とも整合した保存策を講じ、計画的な調査を実施していかなければならない。

注1）奈良市教育委員会『平城京東市跡推定地の調査』Ⅰ～Ⅺ

No.	遺跡名（調査次数）	建物番号	方　向	規　模（東西×南北）	方　位	東西（柱間）m	南北（柱間）m	文　献
001	平城宮内裏北外郭	ＳＢ550	東西	3×3	真北	7.2（2.4）	6.3（2.1）	平城Ⅶ1976
002	第二次内裏地区	ＳＢ7905	南北	2×3	真北	4.8（2.4）	6.75（1.95～2.4）	平城XIII1991
003		ＳＢ7916	南北	2×3	真北	4.8（2.4）	6.0（2.0）	
004		ＳＢ8003	東西	3×2	真北	6.75（2.25）	5.7（2.85）	
005	内裏東外郭東接官衙	ＳＢ12815		2×2	北で東	6.0（3.0）	6.0（3.0）	概報Ｓ61
006	東院園池西南地区	ＳＢ27	東西？	2×2	真北	5.4（2.4～3.0）	4.8（2.4）	概報Ｓ54
007	馬寮地域	ＳＢ6330	南北	3×3	北で西	5.7（1.9）	6.3（2.1）	平城XII1985
008		ＳＢ6140	南北	3×3	北で西	4.5（1.5）	5.4（1.8）	
009		ＳＢ6340	南北	3×3	北で西	4.0（1.3）	5.4（1.8）	
010	左1.3.13（19次）	ＳＢ03	南北？	2～×3	真北	4.2～（2.1）	7.2（2.4）	市Ｓ56
011	左2.3.6（164-12次）	ＳＢ02	？	2×1～	真北	4.6～（2.3）	2.0～	概要Ｓ60
012	左2.4.9（131-16次）	ＳＢ12	？		北で東			概要Ｓ56
013	左3.2.1•2•7•8	ＳＢ4251	東西	3×3	真北	7.5	4.95	長屋王
014	（長屋王邸宅跡）	ＳＢ4710	南北	1～×4	真北	2.1～	7.2	
015		ＳＢ4715	東西？	1～×3	真北	2.1～	5.4	
016		ＳＢ4940	南北	1～×3	真北	2.4～	5.85	
017		ＳＢ4286	東西	4×3	真北	8.7	5.7	
018		ＳＢ4625	南北	2×3	真北	3.9	4.95	
019		ＳＢ4367	東西	3×2	真北	4.95	3.3	
020		ＳＢ4965	南北	2×3	真北	3.3	4.95	
021		ＳＢ5131	東西	2×2	真北	4.5	3.3	
022		ＳＢ4825	東西	3×2	真北	5.4	4.2	
023		ＳＢ4503	東西	2×2	真北	4.5	3.3	
024		ＳＢ4483	南北	2×2	真北	4.2	4.8	
025		ＳＢ4277	東西	2×2	真北	4.2	3.6	
026	左3.2.4（174-10次）	ＳＢ3910	東西	3×2	北で東	4.05（1.35）	2.7（1.35）	概報Ｓ61
027	左3.2.6（宮跡庭園）	ＳＢ1552		3×3	真北	4.4	4.4	①報告
028	左3.2.16（231次）	ＳＢ51		2×2	真北	3.6（1.8）	3.6（1.8）	市Ｈ3
029		ＳＢ56		2×2	真北	3.6（1.8）	3.6（1.8）	
030		ＳＢ64	東西	3×2	真北	4.5（1.5）	3.0（1.5）	
031	左3.3.3（247次）	ＳＢ03	南北？	3～×3	真北	5.4～（1.8）	7.2（2.4）	市Ｈ4
032	左3.4.4（193次）	ＳＢ01	南北	3×3	真北	5.4（1.8）	6.3（2.1）	市Ｈ2
033	左3.4.5（142次）	ＳＢ09	南北	3×3～	真北	3.6（1.2）	5.1～（1.7）	市Ｓ62
034	左3.4.6（194次）	ＳＢ01	南北？	2～×3	真北	4.2～（2.1）	5.4（1.8）	市Ｈ2
035		ＳＢ07		2×2	真北	3.6（1.8）	3.6（1.8）	
036		ＳＢ09	南北？	2～×3	真北	3.6～（1.8）	4.3（1.1～1.8）	
037	左3.4.7	ＳＢ1927	？	2×1～	北で東	4.8（2.4）	2.4～	②報告
038	左3.4.9（102次）	ＳＢ06	東西	3×2	真北	5.4（1.8）	4.6（2.3）	市Ｓ60
039	左3.5.4（54次）	ＳＢ12	南北	2×2	真北	3.0（1.5）	3.6（1.8）	市Ｓ58
040		ＳＢ13	？	2×1～	真北	4.2（2.1）	1.5～	
041		ＳＢ14	東西	2×2	真北	5.0（2.5）	3.6（1.8）	
042	左4.1.15（183-1次）	ＳＢ4003	？					概報Ｓ63
043	左4.2.3（141-31次）	ＳＢ07	南北	2×3	真北	4.2（2.1）	5.4（1.8）	概報Ｓ57
044	左4.2.15	ＳＢ3045	南北	3×4～	真北	5.1（1.7）	6.0～（1.5）	③報告
045	左4.2.16（136次）	ＳＢ06	南北	2×2～	北で西	3.6（1.8）	4.5～（2.1～2.4）	市Ｓ62
046	左4.3.12（110次）	ＳＢ01	東西？	2～×2	北で東	3.0～（1.5）	3.6（1.8）	市Ｓ61
047		ＳＢ03		1～×3	北で東	2.4～	5.4（1.8）	
048	左4.4.2	ＳＢ02	？	3×1～	北で東	4.05（1.35）	1.35～	県
049	左4.4.9	ＳＢ2392	東西	2×2	真北	5.4（2.7）	4.2（2.1）	④報告
050		ＳＢ01	東西	3×2	北で東	4.5（1.5）	3.6（1.8）	県
051	左4.4.14（168次）	ＳＢ27	東西？	3×1～	真北	4.6（1.5～1.6）	1.9～	市Ｓ63
052	左4.4.15（253次）	ＳＢ09		2×3	真北	4.8（2.4）	4.8（1.5～1.8）	市Ｈ4
053	左5.1.1（65次）	ＳＢ29	南北	2×3	真北	4.2（2.1）	5.2（1.7）	市Ｓ58
054		ＳＢ30	南北	3×3	真北	4.8（1.5～1.8）	5.6（1.8～1.9）	
055		ＳＢ31	南北	3×3	真北	5.8（1.8～2.2）	7.2（2.4）	
056		ＳＢ35	南北	3×3	真北	6.0（1.8～2.4）	7.2（2.4）	
057	左5.2.14（１次）	ＳＢ09	南北	2×3	真北	4.9（2.45）	5.4（1.8）	市Ｓ54
058	左5.5.9	ＳＢ04	東西	2×2	真北	3.9（1.95）	3.6（1.8）	県
059	左7.4.15（152次）	ＳＢ01	南北	2×2～	真北	2.1（1.0～1.1）	2.6～（1.3）	市Ｓ63
060	左8.1.3	ＳＢ3501	南北	2×1～	北で西	3.0（1.5）	1.6～	⑤報告
061	左8.1.6	ＳＢ3210	東西	3×1～	真北	5.1（1.7）	1.7～	⑤報告
062	左8.1.14（233次）	ＳＢ02	南北	2×3	北で西	3.4（1.7）	5.4（1.8）	市Ｈ3
063	左8.3.3（203次）	ＳＢ08	南北？	2×1～	北で西	2.6（1.3）	1.0～	市Ｈ2
064	左8.3.3（254次）	ＳＢ01		1～×1～	真北	2.1～	1.8～	市Ｈ4
065	左8.3.16	ＳＢ1440	？					⑥報告
066	左9.1.3（106次）	ＳＢ07	南北	2×2～	真北	3.6（1.8）	3.6～（1.8）	市Ｓ61

067	左9.3.3（148次）	ＳＢ09	南北	3×3	真北	5.1（1.5～1.8）	5.4（1.8）	概報Ｓ57
068		ＳＢ02	東西	3×2	真北	7.2（2.4）	3.6（1.8）	
069	左9.3.10	ＳＢ3680	東西	2×2	真北	3.6（1.8）	2.7（1.35）	⑦報告
070		ＳＢ3764	東西	2×2	真北	4.2（2.4）	3.6～（1.8）	
071		ＳＢ3736	東西	1～×2	真北	2.1～	3.0（1.5）	
072	右1.2.3（191-6次）	ＳＢ01	東西	2×2	真北	3.6（1.8）	3.2（1.6）	概報Ｓ63
073	右2.3.12（156-10次）	ＳＢ1222	南北	2×3	真北	3.0（1.5）	4.5（1.5）	概報Ｓ59
074	右3.3.1（169•173•182•	ＳＢ15	東西	3×3	真北	5.4（1.8）	4.95（1.65）	市Ｈ1
075	184次）	ＳＢ20	東西	2×2	北で西	5.4（2.7）	4.8（2.4）	
076		ＳＢ21	南北	2×2	真北	3.9（1.95）	4.2（2:1）	
077		ＳＢ22	南北	2×3	真北	4.2（2.1）	5.4（1.8）	
078		ＳＢ48	東西	3×3	真北	6.3（2.1）	4.5（1.5）	
079		ＳＢ55	南北	3×3	真北	4.5（1.5）	5.4（1.8）	
080	右3.3.2（226-2次）	ＳＢ108	東西？	1～×2	真北	2.1～	3.6（1.8）	市Ｈ3
081	右3.3.2（256次）	ＳＢ148	南北	2×3	真北	4.1（2.05）	5.4（1.8）	市Ｈ4
082		ＳＢ149		2×2	真北	3.8（1.9）	3.8（1.9）	
083	右3.3.3•6(236-1•2次)	ＳＢ119	南北	2×3～	北で西	3.6（1.8）	4.5～（1.5）	市Ｈ4
084		ＳＢ120		3×3	北で東	4.95（1.65）	4.95（1.65）	
085		ＳＢ135	南北	2×3	北で西	4.2（2.1）	5.4（1.8）	
086		ＳＢ152	南北	2×2	真北	3.0（1.5）	3.6（1.8）	
087	右3.3.8(196-1•2•3次)	ＳＢ104	東西	2～×2	北で西	4.15～（2.05～2.1）	4.75（2.35～2.4）	市Ｈ2
088		ＳＢ111	東西	3×2	真北	5.05（1.6～1.75）	3.5（1.75）	
089		ＳＢ116	東西	3×3	真北	5.3（1.6～1.9）	4.4（1.4～1.6）	
090		ＳＢ148	東西	2×2	真北	3.75（1.75～2.0）	3.85（1.85～2.0）	
091	右8.1.13	ＳＢ1331	南北	2×2	真北	2.7（1.35）	3.0（1.5）	学報
092		ＳＢ1471	東西	3×2	真北	4.95（1.65）	3.3（1.65）	
093		ＳＢ1480	南北	2×2	真北	3.6（1.8）	3.9（1.95）	
094		ＳＢ1482	東西	2×2	真北	2.7（1.35）	2.4（1.2）	
095		ＳＢ1477	東西	3×2	真北	4.5（1.5）	3.9（1.95）	
096	右8.1.14	ＳＢ1580	東西	2×2	真北	3.6（1.8）	3.3（1.65）	学報
097		ＳＢ1582	東西	2×2	真北	4.2（2.1）	3.0（1.5）	
098		ＳＢ1609	南北	2×3	真北	4.2（2.1）	4.8（1.5～1.8）	
099		ＳＢ1680		2×2	真北	3.3（1.65）	3.3（1.65）	
100		ＳＢ1820	南北	2×2	真北	2.4（1.2）	3.0（1.5）	
101		ＳＢ1810	南北	2×2	真北	2.7（1.35）	3.0（1.5）	
102		ＳＢ1890	南北	2×3	真北	4.5（2.25）	5.7（1.8～2.1）	
103		ＳＢ2065	南北	2×3	真北	3.6（1.8）	5.85（1.8～2.25）	
104	左8.3.11（東市５次）	ＳＢ125	南北	2×3	真北	4.2（2.1）	4.05（1.35）	東市ⅢＳ60
105		ＳＢ103		2×2	北で東	4.2（2.1）	4.2（2.1）	
106	左8.3.6（東市10次）	ＳＢ173	南北	3×3	北で西	4.2（1.4）	4.95（1.65）	東市ⅧＨ2
107	（東市13次）	ＳＢ208	東西？	3×2	真北	4.1（1.3～1.5）	3.0（1.5）	東市ⅪＨ5
108		ＳＢ209	南北	3×3	真北	3.9（1.5～1.8）	5.1（1.3）	
109		ＳＢ210	東西	1～×2	北で東	1.5～	3.6（1.8）	
110		ＳＢ211	南北	2×3	真北	3.2（1.6）	3.9（1.3）	
111		ＳＢ212	東西？	1～×2	真北	1.8～	3.2（1.6）	

tab.1　平城宮・京内検出の総柱建物一覧

凡例　※「方向」は、建物の長軸方向を示す。
※文献は、以下のように略して用いた。
平城…奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告』
概報…奈良国立文化財研究所『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
長屋王…奈良国立文化財研究所『平城京長屋王邸宅と木簡』1991
①報告…奈良国立文化財研究所『平城宮左京三条二坊六坪発掘調査報告概報』1986
②報告…奈良国立文化財研究所『平城京左京三条四坊七坪発掘調査報告概報』1980
③報告…奈良国立文化財研究所『平城京左京四条二坊十五坪発掘報告－藤原仲麻呂田村第推定地の調査－』1985
④報告…奈良国立文化財研究所『平城京左京四条四坊九坪発掘調査報告』1983
⑤報告…奈良国立文化財研究所『平城京左京八条一坊三・六坪発掘調査報告書』1985
⑥報告…奈良国立文化財研究所『平城京左京八条三坊発掘調査概報－東市周辺東北地域の調査－』1976
⑦報告…奈良国立文化財研究所『平城京左京九条三坊十坪発掘調査報告』1986
学報…奈良国立文化財研究所『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報第46冊 1986
県…奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報1987年度』1990
市…奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査報告書』
東市…奈良京東市跡推定地の調査』

なお、本表を作成するにあたり、奈良国立文化財研究所松本修自氏、島田敏男氏、仏教大学山前智敬氏の御教示、御協力を得た。

fig. 7　調査区全景（東から）

fig. 8　調査区全景（西から）

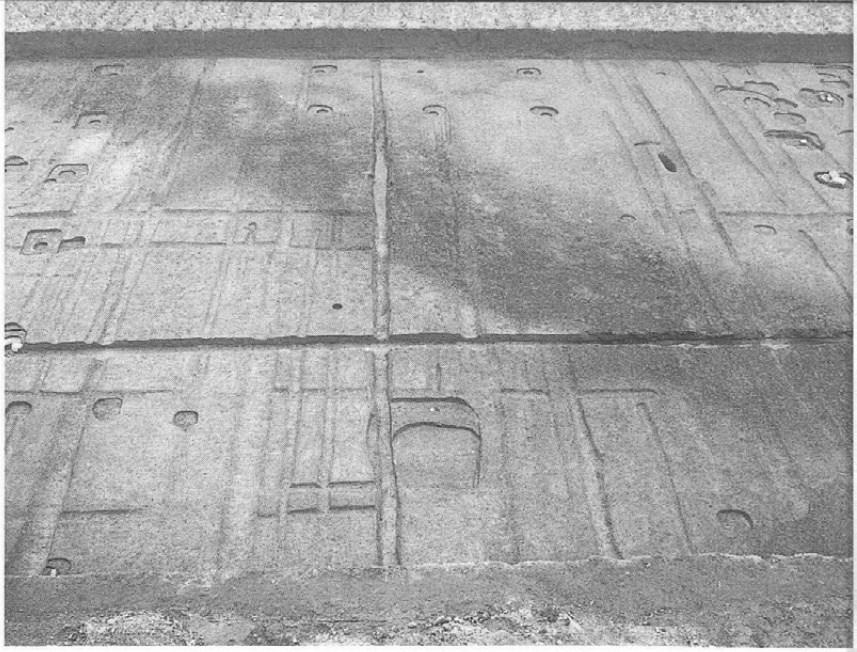


fig. 9　建物ＳＢ203（北から）

fig.10　建物ＳＢ208（北から）

fig.11　建物ＳＢ209（北から）

fig.12　井戸ＳＥ214（東から）

fig.13　建物ＳＢ209根巻石（北から）

fig.14　建物ＳＢ209柱板取痕跡（北東から）

平城京東市跡推定地の調査 XI
第13次発掘調査概報

平成5年3月25日　印刷
平成5年3月31日　発行
編集・発行　奈良市教育委員会
（奈良市二条大路南一丁目1－1）
0742－34－1111（大代）
印　　刷　共同精版印刷株式会社
（奈良市三条大路二丁目2－6）
0742－33－1221
0742－33－7035（FAX）

表　紙　平城京市指図（浄土宗総本山知恩院所蔵『写経所紙筆授受日記』紙背）